

平成 29 年 11 月 21 日

瀬戸内市議会議員
原野 健一 様

瀬戸内市議会議員 小野田 光

原野 健一

平原 順二

馬場 政教

河本 裕志

布野 浩子

角口 隼一

政務活動費視察等報告書

政務活動費を使用して、次のとおり調査研究活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	平成 29 年 11 月 13 日 ～ 平成 29 年 11 月 15 日
訪問先	つくばみらい市 筑波大学 NEC 品川情報センター
調査事項	小中一貫教育の推進について (つくばみらい市) 公共交通網及び道の駅について (筑波大学) 自治体 ICT について (NEC 品川情報センター)
調査概要	●小中一貫教育の推進について (つくばみらい市) 小学校と中学校の連携とソフト事業における児童生徒の結びつきが非常に強い事業を行っている。学びの広場ボランティアでは、中学 1 年生のボランティア生徒が、小学校 4～6 年生に夏休み学習指導を行うという取り組みを行っている。また、小中合同挨拶運動では



中学校の生徒が小学校において挨拶運動を実施している。本市ではこのような取り組みは行うことができていないので、非常に参考になるソフト事業としての取り組みであると感心した。

そして、9年間を見据えた学習指導、連携指導を行うことで中1ギャップを減らす努力を行っている。数字として見えた成果が判断できるほどではないが、今後も全職員が連携を図る中で取り組んでいきたいという意欲が見えた。

●公共交通網及び道の駅について（筑波大学）

つくば市「つくバス・つくタク」事業の概要

① つくバスは成功、乗る人の目線に合わせた運行をできるだけ行っていることが要因である。

つくバスはつくば市内に6路線を運航している。民間の路線が運行できないところを運航する関係上、どうしても赤字は覚悟のうえで行っているが、中には、民営化した路線もあり、さらなる成功によっては、民営化できる路線も出てくる可能性もあると予想している。できるだけ利用者の実態をとらえて、バスの大きさなどを工夫して運行することで利用者の利便性に配慮しているようである。

② つくタクは成功できていない。

つくタクは市内を5区画に分け、区域内利用は300円、区域外利用は1300円という利用料金によって乗り合いタクシーという形式で運行を行っている。乗り合いタクシーではあるが、1人の利用料金が一律であるため、現状では、1回の利用状況は1.5人を切る利用状況であり、1人当たりの市の負担額は2520円と運行経費に対する市の負担割合が92%を超える状況である。使いづらいという市民の声も多く、今後改変を行う予定であるという。

③ 道の駅は、市の情報発信基地という位置づけをもって運営すべきであり、そうしなければ衰退し、魅力のない道の駅は「金の生る木から金食い虫」となる。

道の駅は、うまく運営を行えば金食い虫から金の生る木となり地域の雇用と生産品のブランド化及び地域の魅力のアピールに寄与できる。それを行っていかなければ、これからの道の駅は運営を行っていけないし、利益を生み出す金の生る木にはなれない。群馬県川場村の道の駅と栃木県茂木町の道の駅の事例を紹介していただき、そこで生み出される生産品と魅力が街の魅力となり、町が活性化している様子をうかがうことができた。

	<p>●自治体ICTについて（NEC品川情報センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔認証システムと技術について <p>情報漏洩やプライバシーの保護をどこまで行うのか。犯罪を未然に防止するために、また、犯罪を抑止するための顔認証の技術の状況と、これからの安全安心なまちづくりのためのプライバシーの保護について研究を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートシティへの取組みについて <p>海外各国で取り込まれているスマートシティを支える技術とまちづくりについて、特に治安の悪化の抑制、交通渋滞の緩和、都市機能の維持などの課題に対してクラウドの技術を活用したさまざまな対応策について研究した。あわせて、その他音声認識技術など、福祉や医療の分野でも活躍できる技術についても研究を行うことができた。</p>
所感	<p>●小中一貫教育の推進について（つくばみらい市）</p> <p>小中一貫教育の導入に至る経緯と今後の方向性などを調査し、小中間の連携など未来志向で考察させていただくことができたと感じている。</p> <p>小学校と中学校の連携と児童生徒の結びつかせるソフト事業によって、中学1年生の生徒の学習意欲の醸成と自信の醸成を行うことができていると想像できた。また、中学校の生徒が小学校において実施している小中合同挨拶運動について、本市ではこのような取り組みは行うことができていないので、非常に参考になる取組みであると感じた。</p> <p>●公共交通網及び道の駅について（筑波大学）</p> <p>筑波大学において石田名誉教授からは、氏がつくば市公共交通政策の座長をされていらっしゃるということで、つくば市における「つくバス・つくタク」事業の成果と現状についての意見交換を行った。また、道の駅についても非常に詳しいということから、全国の成功事例についても意見交換を行った。</p> <p>「つくバス・つくタク」事業について、特に感心したのが、バス停の設置場所に看板を整備しているが、その看板には運行事業者が自らの宣伝も踏まえたうえで、民間事業者の名入りで看板を設置している。また、バスの停留所の案内表示で車いすが乗り入れ可能な停留所を明記しており利用者の利便性に配慮している。そして、バス自体も車いすが乗車可能なようにしていることは非常に素晴らしいことであると感じた。</p> <p>道の駅について、そこで生み出される生產品と魅力がまちの魅力</p>

となり、まちが活性化している事例をお聞きし、本市に2つある道の駅にこれらを活かせるように働きかけていきたい。

●自治体ICTについて（NEC品川情報センター）

安全安心のまちづくりのために、また、効率的な街の運営とは人口減少によって引き起こされる街の変化と集落の消滅、それらのことを考えさせられた。

来るべき人口減少社会の到来に対してスマートシティへの変化は必須なのかもしれない。本市においても地域集落を残すという選択肢でこれまで来ているが、それらの集落を維持することについて、「最後の一人が住んでいるまで、インフラを維持し続ける」とするのか、それとも住み替えをしていただくのかについての議論が必要な時代が来るように感じる。その意味で、ICTについて学習し、スマートシティの取組み、顔認証の取組みを通じて、人が安全で安心して生活できるようにするためには、改めて本市の地域課題、むしろ日本の人口減少がもたらす集落消滅に対して、「呆然と集落の消滅を見届けていると市町村が消滅する。むしろ積極的に集落を閉じさせて、効率的な運営によって市町村を存続させる」という方法をとると住民が反対する。これらの中で我々が果たすべき役割はどのようなものなのかについて、技術とは無関係に考えさせられる時間でもあった。